

支援のあり方について

竹中麻衣子さんの講演をきいて 『貧困と子ども的人権』

去る一月に人権機関有田川の委員研修会で竹中麻衣子さんの講演を聞きました。

彼女は湯浅町出身で、まだ二十六歳という若さながら「国際的な活動をした、発展途上国に貢献したい」という幼いころからの夢を着実に実現されている方で、訪れた国は、東南アジア・アフリカなど数か国に及ぶとのことでした。

竹中さんの活動の始まりは、支援団体に入り募金を集め、現地に届けることでしたが、「お金を与えることで依存を助長することになるのではないか?」と疑問を持ち、「支援することは、依存を生み出すことではない」との思いを強くします。

貧困の中で生きている子供たちの真実の声を聞きたいとベトナムに長期滞在し、望まない売春や路上生活を強いられている子供たちの実態を

見てゆく中で、「生活の基盤を作ることが大事」と自立を促す支援の必要性を思い立ちます。

不要となった布切れを回収し、継ぎ合せて風呂敷を作り販売することで、現地の人が自分達で生活資金を生み出す「風呂敷プロジェクト」を立ち上げ、現地の人達に布切れの回収作業や縫製の技術を教えるなどの活動をしてきました。今では、自分でデザインを考え大小さまざまなパッチワーク（コップ敷きからベツドカバーまで）を作るようになり、商品価値を上げる努力もしています。

インドの指導者のガンジーの言葉の中に「良きことは、かたつむりの速度で進む」とあり、竹中さんの「風呂敷プロジェクト」の活動もゆっくり確実に進むことを目指し、商品には「かたつむり」のタグが付けられています。

竹中さんは、現地と日本を往復し

ながら「風呂敷はエコに通じるもの」と、販売や普及に努め、支援者の輪も広がっているそうです。
現地の人達に寄り添い、自立を促す竹中さんの活動こそが真の支援になると強く感じました。

森本 春子



有田中央高校で インターネットと人権について 街頭啓発を実施

去る2月6日午前8時より有田中央高校において登校する生徒を対象に啓発を行いました。

当日は県職員、人権機関有田川委員に加え、本校生徒会役員、野球部員他、有志の方など大変多くの協力のもと人権啓発グッズとリーフレットを配布し、人権の大切さを呼びかけました。

有害情報から青少年をまもろう
青少年の携帯電話にフィルタリングを！
スマートフォン・タブレットにもフィルタリングを！

保護者のみなさんへ
『青少年の携帯電話にフィルタリングを！』という冊子が用意されています。この冊子には、携帯電話のフィルタリングの仕組みや、スマートフォン・タブレットにもフィルタリングをかける方法が詳しく説明されています。ぜひご覧ください。

青少年のみなさんへ
『青少年の携帯電話にフィルタリングを！』という冊子が用意されています。この冊子には、携帯電話のフィルタリングの仕組みや、スマートフォン・タブレットにもフィルタリングをかける方法が詳しく説明されています。ぜひご覧ください。

有田中央高等学校 青少年課 電話：0974-41-1111



○6月1日は

「人権擁護委員の日」です。

この日に伴い、5月31日(金)に人権特設相談所を開設致します。

場所

- ・吉備地区／吉備ドーム
- ・金屋地区／金屋文化保健センター

■時間／13時～16時

・清水地区／清水会館

人権に関するお問い合わせ

金屋庁舎 社会教育課

TEL 52-2111
FAX 32-4827